

田無第三中学校 複合化等の方向性



1 はじめに

《複合化等検討の背景》

第3次総合計画

- 学校を核としたまちづくり
- 学校が地域のキーステーション

学校には、多様な世代や属性の人が集う「きっかけ」や、災害時における防災拠点などの多様な機能がある

公共施設等総合管理計画

- 公共施設の複合化等を積極的に検討
- 現存敷地の有効活用
- 財政負担の軽減・平準化

公共施設の老朽化が大きな課題

学校施設との複合化等の推進

公共施設再編計画

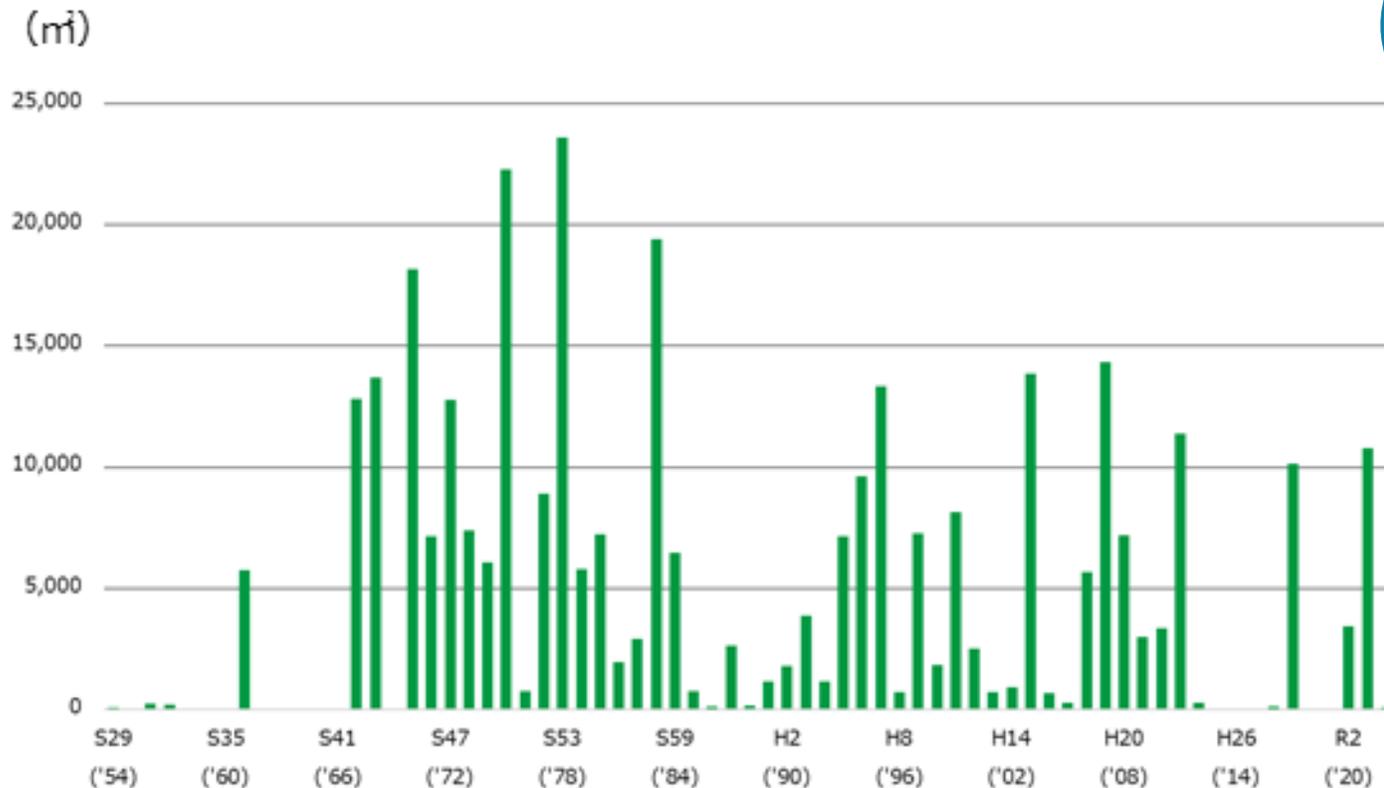
- 公共施設再編の方向性
- 公共施設の適正配置
- 学校教育機能との標準的なサービス機能の整理

各計画の考え方にに基づき、公共施設の複合化等を検討しています。

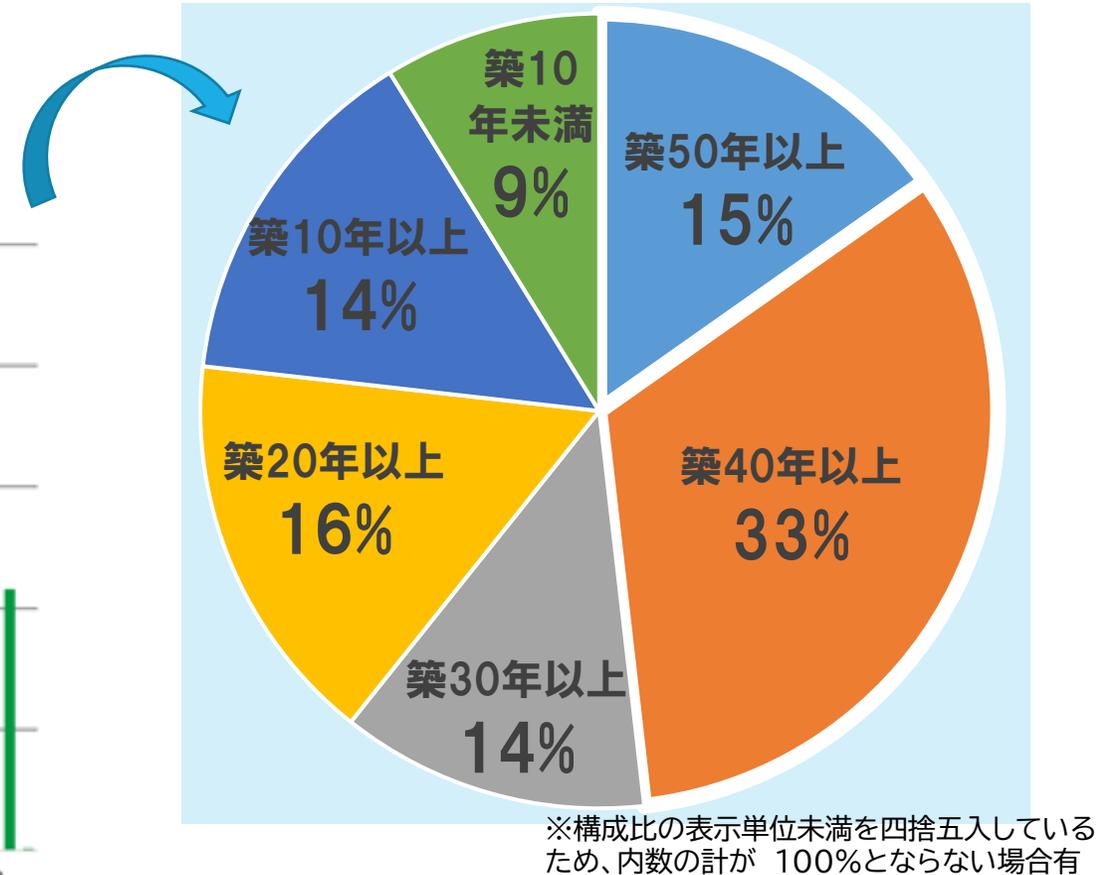
2 公共施設の現状

01 公共施設の老朽化

市の公共施設は、高度経済成長期の急激な人口増加により、昭和40年代から昭和50年代までにかけて教育施設を中心に整備が進められました。



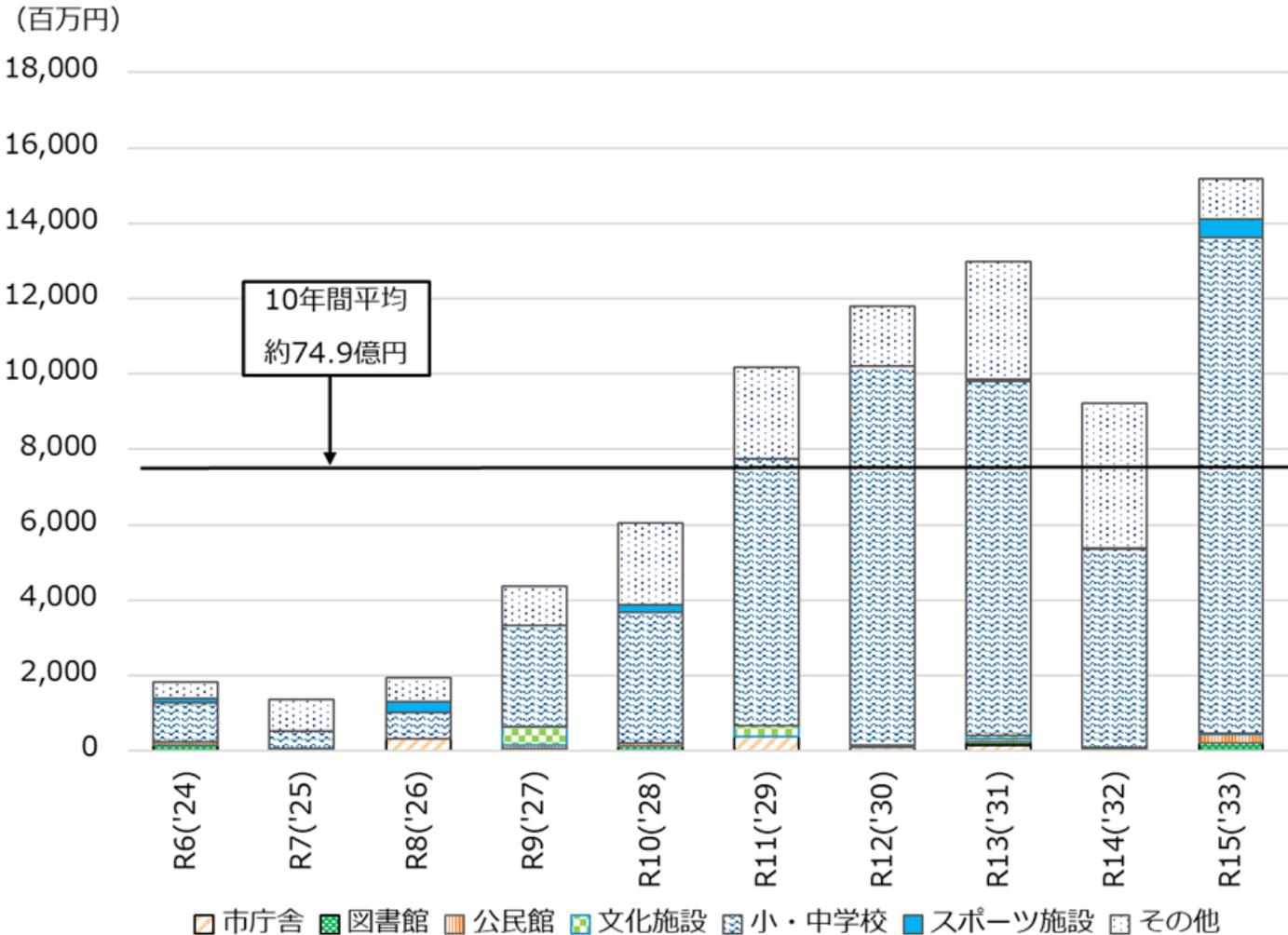
< 築年別施設整備量(総延床面積) >



この頃に整備された公共施設の多くが今後一斉に更新時期を迎えます。

2 公共施設の現状

02 公共施設の将来見通し(費用)



- 市所有の公共施設の更新等を行った場合の推計

※既存の公共施設を単純に維持管理・更新した場合

- 今後10年間の更新等に係る

費用 **約749億円**

(1年あたり:約75億円)



近年は1年あたり40～60億円台で推移

3 公共施設の複合化等の考え方

01 公共施設の複合化等における視点

CHECK POINT

今後、公共施設をすべて単純に更新することは困難である

CHECK POINT

公共施設全体の約6割の面積を占める学校を中心とした施設再編に取り組む

複合化の視点		内容
①	学校施設の複合化等の推進	学校施設の複合化等を推進することにより、効果的・効率的な管理運営やライフサイクルコストを縮減しつつ、財政負担の軽減・平準化を図る。 地域市民のニーズに応じた学校施設の有効活用（地域利用）を推進する。
②	エリア（圏域）における取組	「学校を核としたまちづくり」を推進し、地域の課題を地域で解決できる仕組みづくりを形成するため、身近な相談窓口の設置やコーディネート機能の充実を図る。
③	防災機能の強化	災害時における地域の避難所として、防災機能を一層強化していく。 ユニバーサルデザイン化を図り、すべての利用者にとって使いやすい機能の拡充を推進する。
④	教育環境の向上	複合化等に当たり、多様な市民が集まるという複合施設としての特徴を活かし、学校教育活動との連携・協力や地域の人材の活用も併せて検討する。

3 公共施設の複合化等の考え方

02 学校施設と複合化等を検討する他のサービス機能の考え方

行政又は公共施設に関わりのある団体向けのヒアリングやアンケート、市民参加による意見等を踏まえて、学校施設と複合化等を検討する標準的なサービス機能を次のとおり整理しています。

CHECK POINT

学校施設との複合化等を検討する標準的なサービス機能

「行政機能」、「貸館機能」、「子ども・子育て支援機能」、「保育機能」、
「図書情報機能」、「文化機能」、「スポーツ機能」

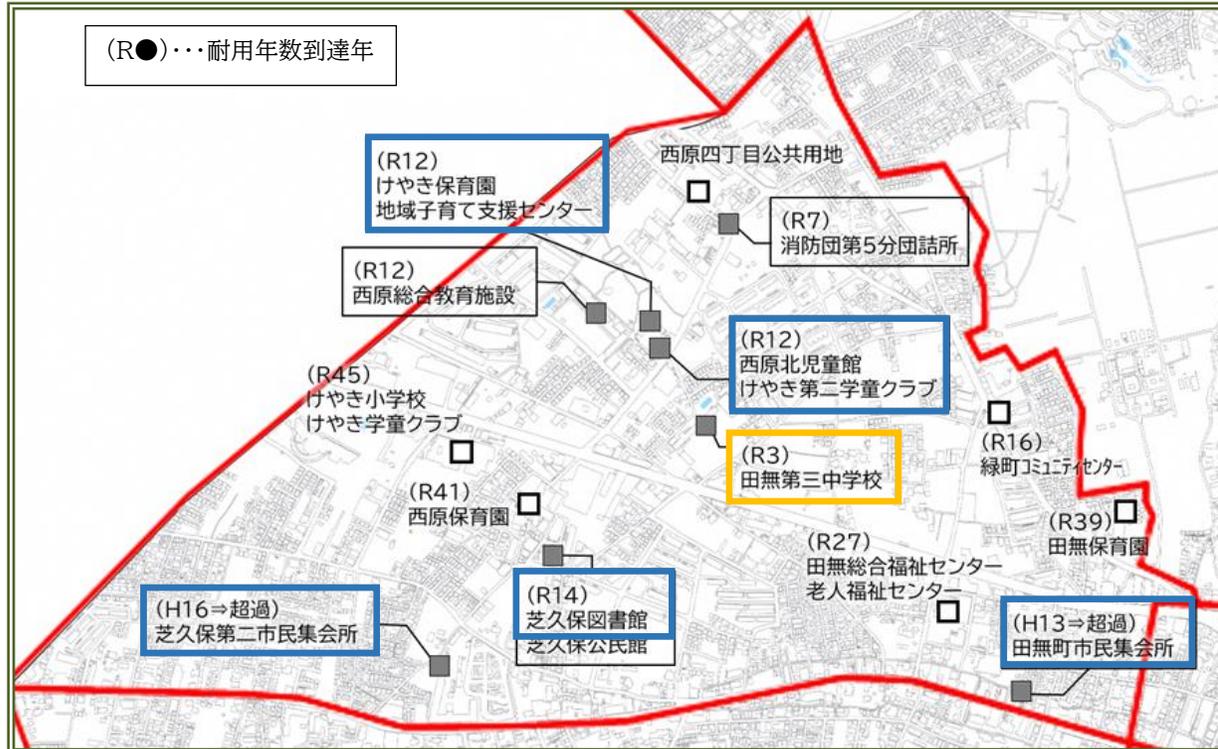
その他の機能を有する施設については、その施設の適正配置の状況や耐用年数、今後の市民意見等を踏まえて、施設再編について検討することとします。

4 田無三中における複合化等の検討

01 田無第三中学校周辺の公共施設

CHECK POINT

令和15年度までに耐用年数を超過する、又は既に超過している施設、早期に取り組む課題のある施設を再編の「**優先検討施設**」として位置付けています。



【出所：西東京市公共施設再編計画（令和6年3月策定）から引用作成】

※青枠（太枠）囲みは優先検討施設かつ学校施設と複合化等を検討する標準的なサービス機能を有する施設を示す

02 エリア(圏域)における取組の推進

中学校への相談窓口・交流スペースの設置



- 身近な相談窓口の設置による「**相談機能の強化**」
- コミュニティの形成・活性化のための「**コーディネート機能の充実**」
- さまざまな人や主体が交流するための年齢を問わない「**居場所の確保**」
- 誰もが生きがいや、つながりづくりができる「**社会参加の機会創出**」

また、身近な相談窓口の設置に伴い、高齢者相談機能（地域包括支援センター）の整備も併せて行うことで、相談機能の連携を図ります。

4 田無三中における複合化等の検討

03

公共施設の適正配置

< 適正配置の考え方 >

施設分野	適正配置の考え方
図書館	将来的に求められる図書館のあり方（機能・役割など）を踏まえ、地域館の役割を整理したうえで検討
公民館	他の公共施設を利用した主催講座の実施やオンライン講座など、身近な場所でのサービス提供が可能となるように、生涯学習における支援体制の充実を図る
市民交流施設	誰もが身近に集える居場所として、小学校通学区域に1か所程度を配置しつつ、地域型交流施設については、エリア（圏域）に概ね1か所程度を配置
児童館	18歳未満の児童の居場所として、中学校通学区域に1か所程度を配置
学童クラブ	児童が安全・安心に通える環境づくりのため、小学校内に配置することを基本とし、定員超過率が著しい場合は、小学校の余裕教室の活用や小学校建替え時における学校内への整備等により対応
保育園	基幹型保育園（地域子育て支援センター併設の保育園）については中学校通学区域に1か所を配置
高齢者福祉施設	福祉会館・老人福祉センターについては、高齢者の健康相談や健康の増進、教養の向上等に資する施設として、その他の施設の活用も視野に中学校通学区域に概ね1か所の配置



< 田無第三中学校通学区域における適正配置の状況 >

施設分野等		配置されている施設	適正配置の状況	
				地域型市民交流施設の配置
市民交流施設	田無小学校	緑町コミュニティセンター 田無町市民集会所	△ 重複	○ あり
	けやき小学校	芝久保第二市民集会所	○ 適正	
児童館		西原北児童館	○ 適正	
基幹型保育園		けやき保育園	○ 適正	
福祉会館等		老人福祉センター	○ 適正	



現状では、市民交流施設について、田無小学校通学区域内で重複配置となっています。

CHECK POINT

また、田無町市民集会所、芝久保第二市民集会所、西原北児童館、けやき保育園については、老朽化が進んでおり、令和15年度までの間で、施設の更新等の対応が必要となります。

4 田無三中における複合化等の検討

04 学校複合化の検討ポイント



Point① エリアにおける施設の適正配置の状況

中学校通学区域における行政サービス機能の重複や空白を踏まえた施設再編の検討



Point② 施設の耐用年数を踏まえた老朽化の状況

耐用年数を踏まえて、施設の更新時期と学校の更新時期が合えば、積極的に複合化を検討



Point③ 学校との複合化による効果

複合化することで、学校教育機能や他の機能との相乗効果が期待できる機能を検討

4 田無三中における複合化等の検討

05 田無三中複合化等の方向性(庁内検討状況)

	施設・機能	再編 優先検討施設	学校の効果的 な複合化等	田無三中との複 合化等の方向性
1	西原北児童館	○	○	○
2	けやき保育園 (地域子育て支援センター)	○	○	○
3	田無町市民集会所	○	○	○
4	芝久保第二市民集会所	○	○	○
5	西原町地域包括支援センター	○	○	○
6	相談窓口・交流スペース		○	○

複合化等を実施

- ・ 複合化等を実施後の既存施設については、基本的には廃止を想定する。
- ・ 6相談窓口・交流スペースは現在はない機能を中学校内で展開していく想定。

5 複合化等を想定する施設

01

西原北児童館

築45年



- ✓ 耐用年数を見据えて、老朽化した施設の更新が必要
- ✓ 現地建替えには課題がある



田無三中との複合化を検討



学校との複合化による効果

- 多世代交流の促進（年齢や学校を超えた活動の場の創出）
- 学びと遊びの融合（児童館でのワークショップやイベントの中学校の教育プログラムへの補完的な役割）
- 小学生が卒業後の環境適応をスムーズにする。
- 中学生の利用促進
- 学校との連携（ボランティア等）



複合化する際のポイント

- 他の学校の子ども、保護者や不登校児が利用しやすい環境づくり
⇒ 出入口や施設配置を学校と分けし、中学校の中にあるイメージを払拭

5 複合化等を想定する施設

02

けやき保育園

築45年



- ✓ 耐用年数を見据えて、老朽化した施設の更新が必要
- ✓ 現地建替えには課題がある



田無三中との複合化を検討



学校との複合化による効果

- 身近な相談窓口の設置による相談機能の維持継続
- 運動会や行事等で、校庭や体育館等、中学校の施設を利用
- 災害時等における中学校との連携
- 学校との連携（行事、職場体験、保育体験、読み聞かせ、ボランティア等）
- 年齢の離れた生徒と園児の連携活動による教育効果



複合化する際のポイント

- 専用の園庭を確保
 - ⇒ 校庭とは別に園庭を整備し、危険のないようにネットやフェンスで分けする。
- それぞれの運営を踏まえた環境づくり（施設、配置）
 - ⇒ 出入口を他の施設と分けし、セキュリティを確保
 - 双方の音の影響を考慮した施設配置を実施

5 複合化等を想定する施設

03

田無町市民集会所 芝久保第二市民集会所



- ✓ 耐用年数を超過、老朽化した施設の更新が必要
- ✓ 施設の適正配置を考慮



田無三中との複合化、集約化を検討



学校との複合化による効果

- 様々な人や主体が交流するための年齢を問わない居場所の確保
- 多目的に使いやすい集会所の確保
- バリアフリーに対応した集会所の確保



複合化する際のポイント

- 現在よりも多目的に利用しやすい環境づくり
 - ⇨ 複数の部屋を確保しつつ、可動間仕切り等で一つの広い部屋としても利用可能とする。
- 田無町エリアの貸館（集会所）機能の確保
 - ⇨ 他の周辺公共施設での分野横断的な利用を検討

5 複合化等を想定する施設

04 西原町地域包括支援センター



- ✓ 耐用年数を見据えて、老朽化した施設・機能の在り方を検討
- ✓ 中学校に新たに整備する相談窓口との連携を視野



田無三中への機能移転を検討



学校との複合化による効果

- 身近な相談窓口の設置による相談機能の維持継続
- 他の相談機能との連携



複合化する際のポイント

- セキュリティや他の施設利用を考慮した動線計画
 - ⇒ 学校や保育園とは動線を分けつつ、他の相談機能との連携も視野に入れた配置計画とする。

5 複合化等を想定する施設

05 整備プラン

施設・機能	既存延床面積	想定必要延床面積	施設(建物)の他専用で必要とされるもの	複合化等に際しての諸条件
田無第三中学校	5,758㎡	約9,500㎡		
西原北児童館	483.29㎡	約500㎡		<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保育園とは別の出入り口を設ける。 ・専用の遊戯室を設ける。
けやき保育園 (地域子育て支援センター)	651.54㎡	約1,000㎡	【敷地】 園庭、駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園専用の出入り口を設ける。 ・専用の園庭を設け、中学校の活動に対しての安全面での区分けをする。 ・2階までの整備が望ましい。
田無町市民集会所	90.72㎡	約150㎡		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の部屋を設け、可動間仕切り等で広い部屋として使えるように工夫する。
芝久保第二市民集会所	34㎡			
西原町地域包括支援センター	約100㎡	約150㎡	【敷地】 駐車場、駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室を2部屋確保する。 ・1階に整備が望ましい。
相談窓口・交流スペース	—	約400㎡	【敷地】 駐車場、駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ・交流スペースはフリーで使えるオープンスペースを基本とする。 ・可動間仕切り等の設置により、柔軟なレイアウトを検討する。 ・学習スペースの整備を合わせて検討する。 ・地域包括支援センターとの連携が図れる配置とする。
防災備蓄倉庫	17㎡	約50㎡		<ul style="list-style-type: none"> ・屋内(体育館)、屋外にそれぞれ整備する。
合計	約7,135㎡	約11,750㎡		

上記の想定必要延床面積は、各施設の運営に当たり必要とされる建物の面積です。今後、詳細な面積の検討に当たり、複合化等による施設・設備の共用化を検討し、想定する面積からの縮減や維持管理費用の抑制を目指します。

6 複合化等の事例紹介

事例①

千代田区立昌平小学校 しょうへい

- 複合施設(床面積)／小学校(9,057㎡)
 幼稚園(851㎡)
 児童館(1,388㎡)
 保育所(242㎡)
 図書館(188㎡)

■構造／RC造 地上6階 地下2階



2層吹抜の多目的ホールは特に地域住民に評判が良い



学校時間外に屋内プールを地域に開放



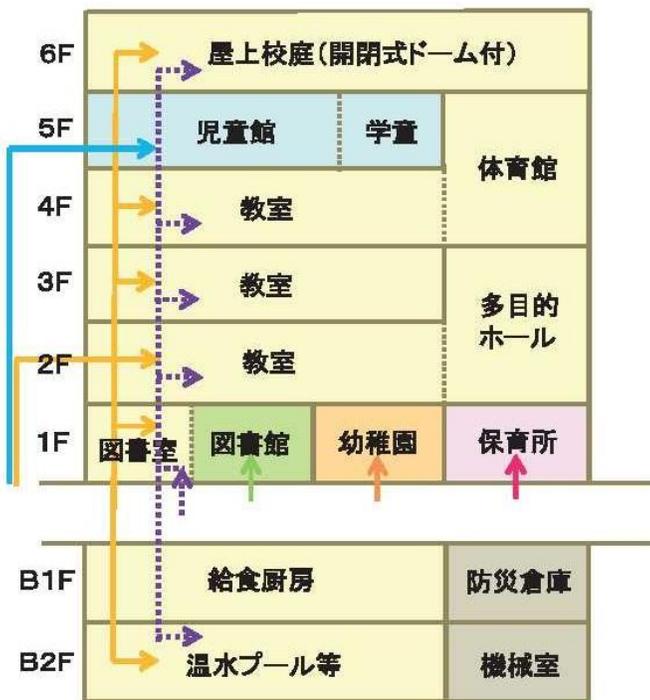
1階に幼稚園を配置



5階全体を使った広い児童館

- ✓ 狭い敷地を有効活用し、図書館や子供向け施設を整備
- ✓ 学校プールを地域に開放

<立面図>



<配置図>



- 凡例
- 黄色 → 小学校
 - 青 → 児童館・学童
 - 紫 → 保育所
 - オレンジ → 幼稚園
 - 点線 → 学校開放
 - 緑 → 図書館

6 複合化等の事例紹介

事例②

ろか 世田谷区立芦花小・中学校

- 複合施設(床面積)／小・中学校(21,162㎡)
保育所(924㎡)
- 構造／RC造 地上4階

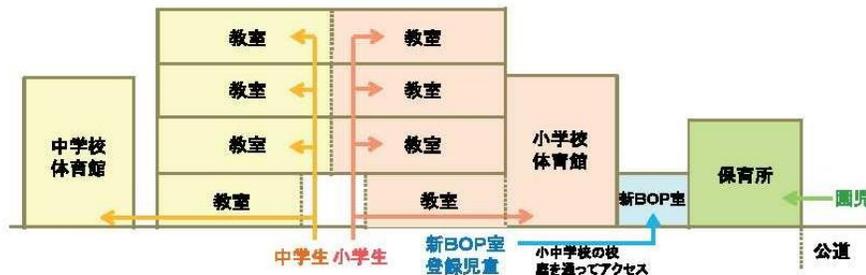
- ✓ 小・中学校と保育所との複合化により、交流活動を創出
- ✓ 学校と保育所敷地への出入り口は別に設置
- ✓ 園庭は校庭とは別に確保

保育所と小中学校の交流

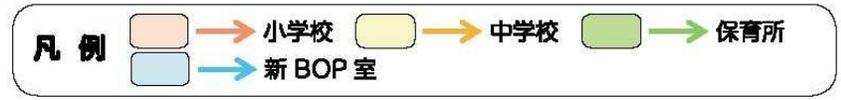
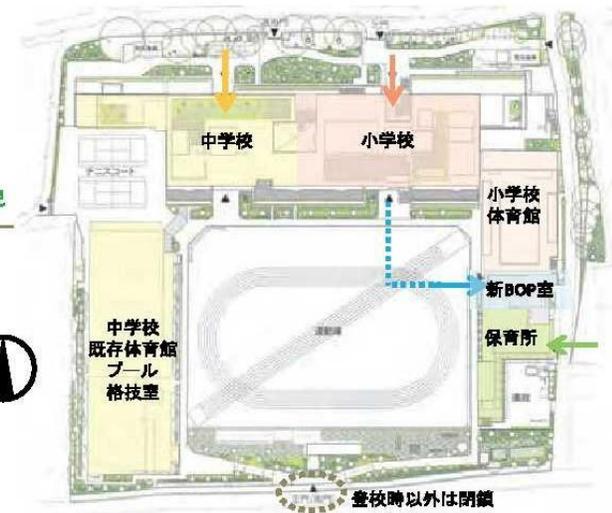
- ・保育所で中学生が職場体験を実施。中学生の普段見られない優しい一面がみられることもある。
- ・児童、生徒による園児への絵本の読み聞かせを実施。
- ・保育所のテラスや窓から、校庭で活動している小中学生の様子を見ることができる。



<立面図>



<配置図>



6 複合化等の事例紹介

事例③

世田谷区立砧南中学校

きぬた

■複合施設(床面積)／中学校(7,566㎡)

保育所(237㎡)

■構造／RC造 地上4階

✓ 学校と保育所の出入り口、動線の分離

✓ 中学校と保育所の交流

保育所と中学校の交流

- ・中学校の体育祭において園児が出場する「保育園競技」を取り入れるなど、生徒と園児の交流を図っている。
- ・中学生が職場体験として保育所を訪れたり、家庭科の授業の一環として保育体験を実施。
- ・中学生の発案で、紙芝居を作成し、園児にプレゼント。
- ・生徒たちの園児との交流による思いやりの心の醸成

屋外動線の分離

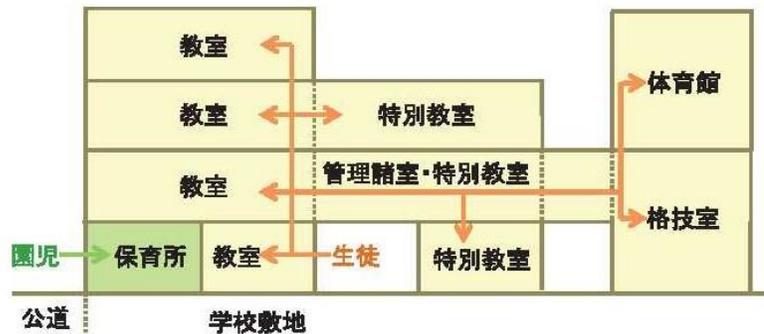
- ・動線を明確に区分するため、中学校と保育所の門を別に設置。
- ・門は電気錠付きとし、インターホンで解除。

- ・園庭は専用の敷地を確保。
- ・園庭は、中学校部分との交錯がないよう、フェンスを設置。
- ・上部には部活動等で飛んでくるボール対策として防球ネットを設置。

- ・園児にとって必要な安全性を確保



<立面図>



<配置図>



凡例 □ 中学校 □ 保育所

6 複合化等の事例紹介

事例④

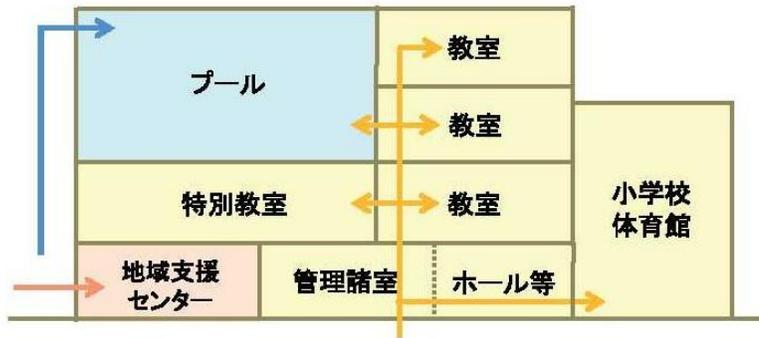
目黒区立碑小学校

いしがみ

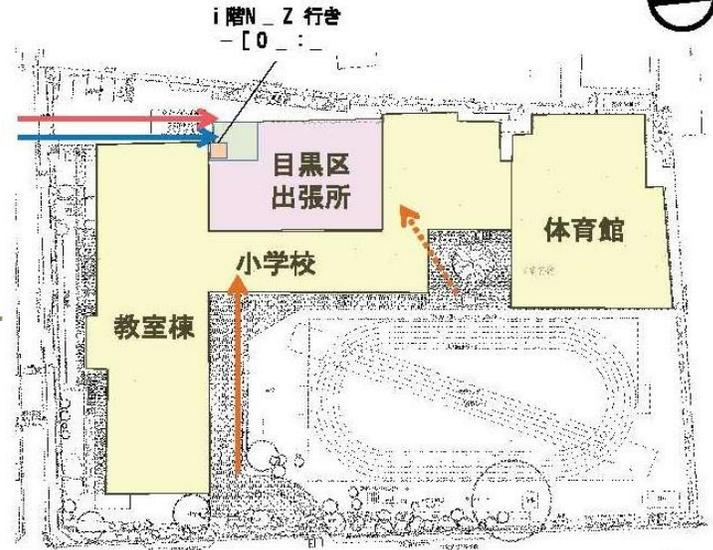
- 複合施設(床面積)／小学校(7,830㎡)
地区プール(1,462㎡)
地域包括支援センター・
出張所(500㎡)
- 構造／RC造(一部S造) 地上5階

- ✓ 各施設利用者と児童の出入り口、動線は完全に分離
- ✓ 学校プールを地区プールとして地域に開放

<立面図>



<配置図>



動線分離等による防犯対策

- ・児童の防犯面を第一に考えて設計。
- ・出張所やプールの地域利用者の動線は、学校とは明確に区分している。
- ・建物内でも、通常時は互いに行き来できないようにしている。
- ・4階の屋内プールへは、学校内を通らずに、専用のエレベーターで直接向かうことが可能。



出張所やプール利用者専用のアプローチ



プール専用エレベーター

6 複合化等の事例紹介

事例⑤

市川市立第七中学校

- 複合施設(床面積)／中学校(7,486㎡)
 - 文化ホール(3,077㎡)
 - 保育所(611㎡)
 - ケアハウス(2,468㎡)
 - 老人デイサービス(393㎡)
- 構造／RC造 地上5階 地下1階

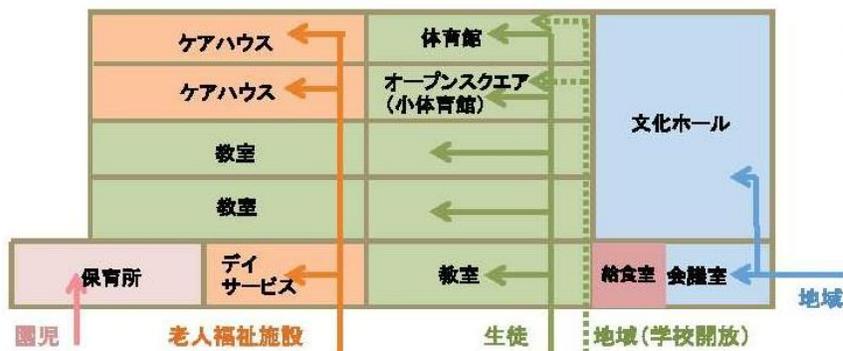
- ✓ 学校と保育所の出入り口、動線の分離
- ✓ 中学校と保育所、高齢者の交流
- ✓ 施設間の連携による防災力の向上

相互利用・交流活動

- ・園児と高齢者で週に一度、合同で体操を実施。
- ・中学生と園児、園児と高齢者、高齢者と中学生の交流イベントを実施。
- ・学校図書室を地域に開放
- ・施設の一体化による近接性を有効活用し、施設の相互利用で行事等を実施。
- ・避難訓練では、中学生が高齢者や園児の避難を介助。
- ・施設間の連携による防災力の向上。
- ・中学生の保育実習を実施。

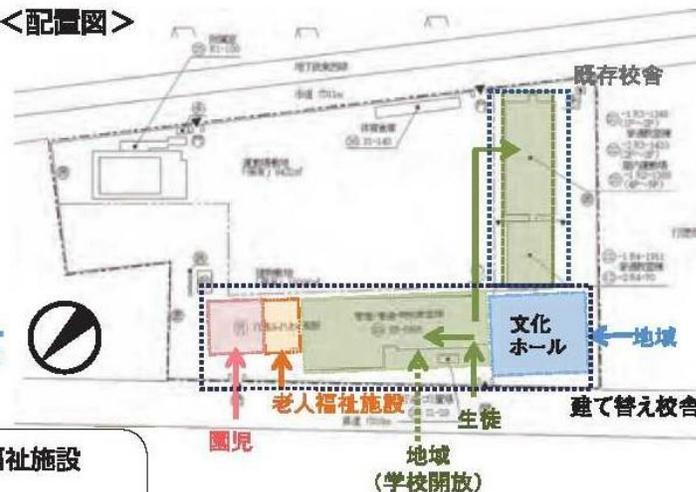


<立面図>



- 凡例
- 緑色 → 中学校
 - ピンク色 → 保育所
 - オレンジ色 → 老人福祉施設
 - 青色 → 文化ホール
 - 赤色 → 給食室

<配置図>





NISHITOKYO